

(様式2)

令和4年度 自己評価表

学校名 湯梨浜町立羽合小学校

校長名 谷口 章人 印

1. 学校の教育目標

やさしく かしく たくましく
～仲間とともに 地域とともに 未来を切り開く子どもの育成～

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 落ち着いた生活の中で、「個」と「集団」の力を伸ばす。
- 育てたい（育てなければならない）資質・能力が身につく授業改善を進める。
- 地域とつながり、地域に根ざした教育活動を充実させる。

3. 年度当初の評価項目

評価項目	現状	めざす姿	具体的方策	評価方法
心を耕し豊かな心を育む【やさしく】 ○友だちを大切にしたい関わりができるようにする。	・あいさつを返すことができるようになってきたが、いつでもどこでも誰にでも進んであいさつをすることに課題がある。 ・大人の目の届かないところで、人を傷つけるような言葉や呼び捨てをする児童が見られる。	・友だちを大切にしたい呼び方や伝え方ができる。	・各学級であいさつ当番を行う。（各学期で発展させていく。） ・あったか言葉の取り組みを通して、各学級で使いたい言葉を選び、帰りの会で振り返りを行う。（10月の人権週間） ・SSTを行う。（友だち関係のスキル、1学期と3学期に1回ずつ。）	・学校評価にかかわる児童アンケート（全校） 「誰にでも自分からあいさつをしている」→80% 「友だちをよぶときは、『さんづけ』をしている」→93% 「友だちに対してていねいな言葉を使っている」→80%
○あたたかい学級づく	・友だちに無関心で、積極的	・友だちの思いを受け取り、	・いいところ見つけを実施す	・hyper-QU

(様式2)

りを進める。(仲間づくり)	に関わろうとする姿が少ない。 ・リーダーを中心に、自他のよさを認め合いながら意欲的に意見交換をしたり、協力して活動に取り組んだりすることに課題がある。	協力する(助け合う)ことができる。	る。(どの児童に対してもいいところが見つかるような工夫を各学級で行う。) ・学級カレンダーを活用した、学級のいいところみつけを行う。(学級全体でよかったところ、がんばっていたところをカレンダーに貼る。) ・学級づくりに関するエンカウンターを行う。 ・月に1度、クラス会議を行う。学期に一度、リーダーチャートを活用したクラス会議を行う。	「クラスの人とは協力したり応援したりしてくれる」(上学年)、「何かをしようとする時クラスの人とは協力してくれますか」(下学年) →85% 「みんなのためになることを見つけて実行している」(上学年)、「誰かが困っている時自分から手伝いをしていますか」(下学年) →85%
未来を切り開く資質・能力の育成【かしこく】 ○ICT機器の効果的な活用を図る。	・タブレット端末の活用について、1、2年生では「ペンの操作」、3、4年生では「ローマ字入力やタイピング」、5、6年生では、「ローマ字入力やタイピング」「発表スライド等の作成」に課題が見られる。 ・特別教室や特別支援学級に電子黒板がなく、教員用のタブレット端末が必要数揃っていないなど、ICT機器を取り巻く環境が整っていない。	・児童がICTを活用し、情報を収集したり、選択したり、発信したりすることができる。	・ICT機器の活用を単元計画の中に位置づけ、実践した事例を蓄積する。 ・研究教科「体育科」におけるICT機器の活用を図る。 ・ICT機器を活用した授業づくりのための職員研修(かしこく部会を中心に)を実施する。 ・基礎・基本的な技能(タイピング等)の定着に向けた時間の確保やアプリ「らっこたん」を活用する。	学級担任：ICT機器の使用についてのアンケート ・ICT機器の活用の仕方を知ることができたか →85% ・情報教育 年間指導計画の重点項目が実施できたか →85% 児童：情報機器の活用能力アンケート ～タブレットを使って～ ・ペンを使って操作できる(低学年) →85% ・ローマ字入力ができる(中、高学年) →85% ・発表スライドができる(高学年) →85%

(様式2)

○基礎・基本の定着に努める。	・すばやく、正しく計算することを苦手としている児童が多い。 ・繰り上がり、繰り下がり、たし算やひき算につまずいている児童が多数いる。 ・高学年になっても、かけ算が定着していない児童が一定数いる。	・計算する力を身につけ、すばやく、正確に計算することができる。	・朝学習の内容、方法の確立と充実。金曜日の朝学習を「算数」に固定し、各学年で身につけるべき計算の内容に設定する。(月ごとに同じ計算の問題に取り組み、月初めから月末まで児童がどれだけ速く、正確に解けるようになったかを把握できる取り組み(朝学習のプリントをファイリング等)) ・家庭学習の内容を工夫する。(一人一人の実態に適した課題、内容の提示と配布。)	・算数科における計算領域の単元テスト、「知識・技能」の得点率 → 80% ・学期末のまとめテスト、計算領域の得点率 → 85%
健康でたくましい心と体づくり【たくましく】 ○基本的な生活習慣の定着に努める。 ○体力の向上に努める。	・就寝時間について二極化が進んでいる。 ・家族間でゲームやスマホの約束の共有ができていない。 ・メディアに関わる時間が長い。 ・生活リズムが整っていない。 ・姿勢の保持が難しい。 ・新体力テストで県平均を下回る種目が多い。 ・運動習慣の違いから、運動	・生活リズムが確立できる。 ・進んで運動し、目標をもって体力づくりに取り組むことができる。	・メディアに関する学習を行って、各家庭に持ち帰り、ルール等を確認する。 ・メディアの約束を学校で共通理解する。 ・メディアに関する保護者研修を行う。 ・ぐっすりデーを実施する。(毎週火曜日) ・ハワイふれあいデーを実施する。(ノーメディアについて通年で実施) ・短時間運動プログラム(チャレトレ)を体育や業間運動で実施する。 ・投領域や体づくり運動などの導入部分において、カラ	・ワークシートの回収率 → 85% ・ぐっすりデーの達成率 → 85% ・ハワイふれあいデーの結果 → 85% ・短時間運動プログラムに取り組むことができたか。 ・運動することが楽しい。(体育アンケート)

(様式2)

○あきらめず粘り強く取り組む児童の育成をする。	能力の二極化が進んでいる。 ・粘り強くできない。 ・向上心が乏しくあきらめやすい。 ・そうじに一生懸命取り組む子が少ない。	・粘り強く働くことができる。	一手袋を使った投運動を行う。 ・スポーツの楽しさに触れる体験（スポーツ教室）を実施し、運動する意欲を向上させる。 ・朝の会で、30秒程度の柔軟体操（立位体前屈・まげまげピン）を行う。 ・掃除に関する生活月目標（7月、12月、3月）を活用し、帰りの会で振り返りをする。 ・だいじ掃除を具体的に意識できる掲示をする。その掲示を見ながら、児童が掃除後に評価できるようにする。評価の方法は、学年の実態に応じて行う。	→85% ・お子さんは学校で元気に体を動かしている。（運動している。） （保護者アンケート） →85% ・体力テストの考察を指導に生かしたか。 ・だいじ掃除にがんばっているか。（学校評価アンケート（児童）） →85%
地域とともにある学校づくり【開かれた学校】 ○積極的な情報発信を行う。 ○地域に学ぶふるさと教育の推進を行う。	・各種たよりやホームページを活用し情報発信に努めてきたが、保護者や地域の方々に児童の具体的な活動を見ていただく機会が必ずしも多くない。 ・地域にでかける学習は多くしているが、地域の人との深い交流や地域に貢献する活動は工夫の余地がある。	・学校から積極的な情報発信を行い、学校や学級の様子や、学校の経営方針等を保護者や地域が共有している。 ・地域に愛着を持ち、地域の人と交流を深めたり、地域に貢献したりしようとしている。	・適時適切な情報発信と、コロナ禍の中における安全に配慮した参観日等の学校行事を開催する。 ・教科や委員会活動など、人や地域と深く関わり地域に発信する学習や活動になるよう工夫する。 ・ゲストティーチャーの活用。	・学校は、参観日や各種たよりやホームページなどで、子どもたちの様子をよく伝えている。（保護者アンケート） →90% ・単元計画に基づき、地域の人、もの、ことと深く関わる学習ができたか。